

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493100570	事業の開始年月日	令和2年10月1日
		指定年月日	令和2年10月1日
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ横浜大久保グループホーム		
所在地	( 233-0007 ) 横浜市港南区大久保3-38-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年11月18日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

横浜の中心部に位置し、横浜横須賀道路の別所インターから車で5分という好立地に恵まれた閑静な住宅街の中に開設し、17年目を迎えようとしています。地域との結びつきも固く、町内の催し物や学校行事等にもご招待頂いております。（2020年、2021年、2022年度は新型コロナウイルス感染症予防のため中止）正に地域と共に歩み、地域の中に存在し、地域の方にも受け入れられているホームです。ご自宅の様にゆっくり寛いで過ごして頂きたいと考え、起床時間や就寝時間は特に設けず、ご希望の方はお昼寝もして頂いております。これまでのご生活を尊重し、無理のない範囲でお掃除や食器拭き等のお手伝いをお願いしたり、立位が出来ない方へも洗濯物畳みや新聞折をお願いし、役割を持って頂くことにより、必要とされているという実感を得て頂けるよう支援を行っております。今年には庭に家庭菜園の場を作る事で、男性のお客様にも活躍の場を提供する事が出来ました。また、ご入居に際しては、介護度で選ぶことなく特にお困りのご家族様のお力になれるよう、親身になってご相談にのらせて頂いており、最期の時をホームで迎えたいとご希望されるご家族様には医師、看護師、歯科医師と連携を図りながらご対応をさせて頂いております。ご家族様、ご本人様、スタッフが共に安心して笑顔で過ごすことが出来るよう、適宜カンファレンスを開いたり、医師との面談も行いながら、お客様の毎日を支えています。

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年1月10日	評価機関 評価決定日	令和5年2月10日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は京急線「上大岡」駅下車、神奈中バスで11分、「普門院前」下車、徒歩7分の坂の途上の見晴らしの良い高台にあります。大型の団地や住宅が散在する静かな地域の道路沿いにある明るい外壁の鉄筋2階建ての施設です。

<優れている点>

事業運営は「お客様視点で尊厳を守り寄り添う」を最重視しています。建物は築17年ですが清潔・整頓を第一に内外共に整理・清掃に努めています。コロナ感染防止に対する対応は職員が中心となり、感染防止委員会を立ち上げ、日々の感染防止行動と防御備品リストや職員の始業時確認リストを活用して確実に実施しています。看取り対応の時が来ると新たに家族の意向を再確認し、手厚いケアプランを作成しチームで支援をしています。

<工夫点>

ホーム前庭に家庭菜園をつくり、入居者と一緒に四季折々の野菜を作ることで「季節と食の楽しみづくり」をしています。お客様サポートとして居室担当制を設け、家族等との情報交換、本人意向の確認、カンファレンスの基礎情報収集や支援に大きな役割を果たしています。地域への情報発信を進め、相談や依頼などを受ける地域の「サポート基地」となるよう努めています。また、法人が立ち上げている職員教育研修システム「イーケアラボ」を用いて、職員の研修の機会を作りだし、人材育成に取り組んでいます。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ツクイ横浜大久保グループホーム
ユニット名	1階 せせらぎフロア

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念浸透の為に、毎朝の唱和を行っている。 また、理念に沿った尊厳の重視、チームワークの重要性を話し合い、実践に結びつける努力を行っている。	「大理念」・「理念」・「指針」と身近に介護の現場で使えるように作成し、機会あるごとに唱和、確認をしています。お客様視点を大切にし、常に今日一日を「笑顔」で過ごしてもらう事に注力し、そのための「プロとしての実践」を目指しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在感染症の防止の観点で、中々交流が持てないが、散歩の際には積極的に声をかけ、関係を繋いでいる。	コロナ禍の現状は外出や、近隣学校からの来訪、祭りの参加、ボランティアの受け入れなどが出来ない状態ですが、施設の周りの散歩などで地域住民に声掛けをすることで交流を続けています。コロナ収束後の再開を心待ちしています。	理念の実践として、地域における課題の討議や意見交換をさらに進めるため、福祉関係施設との連携や情報交換の定期的な機会を積極的に作る事が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在感染症の防止の観点で、施設内への立ち入りを制限しており行う事は難しいが、地域の駆け込み寺的な存在を目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在感染症の防止の観点で、ここ2年は書面開催としているが、2か月に1度は書面開催の内容を送付している。	書面で開催しています。行事やヒヤリハットの報告を委員、家族、港南区役所に送っています。地域情報は自治会長、民生委員から得ています。家族からの要望は居室担当経由で受けています。毎月の家族への「家族だより」にもアンケートや意見を求めています。	運営推進会議の報告における記述方法をわかりやすく、伝わるよう工夫する事がさらに期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の議事録は必ず手渡しで区役所の担当職員に渡し、積極的に話しかけ、存在をアピールし続けている。	港南区との情報交換はメールが中心ですが運営推進会議の議事録は必ず、港南区役所に出向き担当者に手渡しをして関係を築いています。抗原キット、防護ガウンなど必要な備品の支給を受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2か月に1度、委員会を開催し、各フロアの現状について、問題点や改善点を話し合っている。 また、年に2回の研修も開催し、資質向上に努めている。	身体拘束廃止委員会は管理者が中心となり各階ごとに役割を持った職員で構成しています。日々の問題点の討議や事例検討を続けています。どうしても職員のストレスなどで起きやすいスピーチロックについては現場主義で話し合い、解決の道づくりに努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	2か月に1度、委員会を開催し、各フロアの現状について、問題点や改善点を話し合っている。 また、年に2回の研修も開催し、資質向上に努めている。	虐待防止委員会も管理者中心に職員で行っています。「絶対にやらない」「見て見ぬふりはしない」を合言葉に夜勤時など必要と判断した時は管理者自ら勤務に加わり、心身両面のサポートをして予防と職員の気付きに繋げています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を開催し、理解に努めている。 現在後見人制度を必要としているお客様はいらっしゃらないが、今後に備え、知識の積み重ねを行って行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関してはご本人様、ご家族様のご事情を尊重し、フロアの現状と鑑みて説明を誠実に行っている。改定の際にも対称表にて丁寧に説明を行い、合意と同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談室に意見箱を設置し、意見の徴収を行っている。また、運営推進会議開催の前にも、ご意見等を頂くよう、働きかけを行っている。	家族だよりに運営推進会議の議事録と共に本人の生活の様子の写真とアンケートを同封し意見を聞いています。居室担当の職員が日頃の生活の様子を書いた手紙「一筆だより」をきっかけに要望などを聞く機会を作っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別の面談、更新時面談、夜勤者面談等で、意見を聴き、一緒に考えるよう働きかけを行っている。 また、必要であれば、本人の了解のもと、フロア会議等で議題として取り上げている。	年に数回の個人面談を実施しています。職員の特性・希望に沿ってそれぞれの役割が果たせるよう配慮しています。業務日誌の内容や毎月のミーティング時に出た意見を議題として話し合いを進めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアデザインや、目標設定、評価シートなどを用いて、個々の希望達成や、研修の機会を設けている。	職員一人ひとりの要望を受けて勤務のシフト表を練り上げ作成しています。職員が休息できる部屋も完備し働きやすい環境を整えています。出退勤、研修計画・報告などすべての管理はパソコン・タブレットを活用し業務効率化した運営をしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の研修の他に、資格取得の補助やイーケアラボの活用等、幅広く職員育成に力を入れている。	法人が作成したスマートフォンやタブレットで受講できる研修システム（イーケア・ラボ）を導入しています。短時間の研修を繰り返し受講することができるこのシステムの活用の推進を強く推し進めることで、教育の効果を積み上げる努力をしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	感染症防止の観点から外部者の立ち入りを制限している。 ただ、感染状況に応じては自由にネットワークの構築を図る事が出来る。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居前には可能な限り、ご本人様の落ち着ける場所で、生活歴や現在困っている事、不安に思う事を聞き取り、取り除く努力を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご見学時や、ご入居前に、ご家族様と話し合いの機会を設け、施設の方針、支援の方法等を説明しながら、ご家族様の想いを話して頂き、不安な気持ちなく入居に結びつける努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の介護サービス先の情報等を集めながら、ニーズの洗い出しに努めている。また、ご家族様が必要とするサービスについてもトータルサービスと連携し、解決に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	何よりも尊厳を大切にして、ここで共に生きている実感を感じて頂けるよう支援を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ケアプラン作成時や、日常の生活で疑問が生じた場合などは、ご家族様に連絡をとり、共に話し合いながらご本人様の支援に繋げている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様とのお墓参りや、結婚式などへの参加を積極的に促していたが、現在は感染症防止の観点から、外出はなるべくご遠慮頂いている。ご家族様へはお写真などをお持ちいただくよう、お願いしている。	コロナ禍の今は親戚の来訪もありませんが、感染症対策のため写真で家族を思い出して貰うなど工夫しています。対面は自粛していますが、餃子など利用者の好物の料理が届くこともあります。年賀状や手紙の代筆や、電話の取り次ぎ、読み合わせなどの支援もしています。面会はガラス越しで10分間の原則を継続し感染症対策を徹底しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性を見ながら適宜フロアでの席を替えたり、協同作業やレクリエーション等を通じてお互いの存在を受け入れられるように支援を行っている。 ただし、落ち着ける場所が必要な方には一人席もご用意してその方のペースを尊重している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転居された方や、ご逝去されたご家族様に対しても、何かあればいつでもご連絡を頂くよう、お伝えしている。 ご退去後数年経ってもご家族様が不要な古布や新聞紙を差し入れて下さることもある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様の望む生活が出来るように、提案をしながら支援を行っている。また、ご本人様の意思が確認できない場合等は、ご家族様にお伺いしながら好ましいと思える暮らしの提案を行っている。	毎月のミーティングで必要な人のカンファレンスを実施し、本人の最新の情報と支援の進め方の再確認をしています。職員は「本人のその時の自らの思い」を一番と考え、提案できるように日々声掛けをしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の介護サービス情報の収集や、担当者への聞き取りを行い、自然な形でご入居、生活がスタートするよう支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月のカンファレンスを基にスタッフの意見を幅広く集め、支援に活かしている。 また、必要であればケアプランの変更も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居前の介護サービスの情報や聞き取り、ご家族様のご意見、ご本人様との話し合いを基にスタッフとカンファレンスを開催、更に居室担当者を決定し、ケアプラン作成時に意見を取り入れている。	その人らしく暮らし続ける為、入居前の情報を集め、本人・家族の思いや意向を聞いています。まずホームでの新しい生活に慣れることを目標に掲げ、居室担当を決めています。ゆっくりと時間をかけて入居者と向き合うことで、課題を把握し、毎月の職員会議で話し合い作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録はタブレットにて入力できるシステムになっており、施設内で情報の共有がスムーズに行っている。また、補足事項などは連絡ノートや業務日誌にて回覧を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様が必要としているものの見極めを行い、どの角度で支援を行って行くのか常に話し合う機会が持たれている。また、介護サービス以外でも対応が可能となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	2か月に1度の運営推進会議は現在は感染症防止の観点から書面開催だが、以前は地域の町内会長、副会長、民生委員、ケアプラのケアマネ等が出席し、地域の情報収集と参加を行っていた。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の選定はご家族様やご本人様の意向が優先され、かかりつけ医を持たない方に対しては日頃の様子観察や特変時の対応として、施設に出入りしているかかりつけ医を紹介している。（みらい在宅、みずほクリニック等複数あり。他を探す事も行って	本人や家族の希望する、かかりつけ医を選択しています。現在複数の医療機関より、それぞれ月2回の訪問診療を受け、密に連携しています。他科への受診は家族と相談の上、紹介状をもらい整形外科・精神科などを受診することもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週金曜日に訪問看護師が全ご入居者様の健康観察を行っている。また、緊急時の電話相談や訪問も24時間体制で行っている。訪問看護師が必要と判断した場合には往診医に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を交え、状態の把握や早期退院に向けた話し合いを病院関係者を行うようにしている。また、退院後の生活についても入院中に医師、看護師と話し合いを行い、ご家族様のご希望も取り入れた上で安心して迎えられる環境作りを構築している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期であると医師が判断した場合は、施設にご家族を呼び、意思を交えた丁寧な説明と同意を頂いている。また、居室担当者を中心にご家族様のご希望を基に安心できる環境を提供できるよう留意している。	入居時に「看取りの指針」について説明をしています。終末期には、主治医より病状を説明し、ホームでの看取りについて家族と話し合います。本人や家族に安心して最期を迎えられるよう、随時意志を確認し、きめ細やかなケアプランを作りチームで支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な研修の場や、緊急時のマニュアルの整備を行っており、特変時にも慌てず対応できるよう訓練を行っている。また、管理者、計画作成担当者は24時間の電話連絡を可能とし、不測の事態に備えている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業継続計画を策定し、各フロアに整備している。また、緊急時の避難先や連絡先等は各フロア事務所に掲示し、必要時にすぐに確認できる体制を整えている。	年2回、ユニットごとに避難訓練を行っています。今年は入居者による「消防隊長」のもと、共同で行っています。寝たきりの人を想定し、シーツに包んで避難する方法を学んでいます。地域の人には入居者を施設外に誘導した後の見守りをお願いして実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その方の性格や生き方を最大限に尊重し、丁寧な支援を心掛けている。 また、接遇に関しては年間研修計画に盛り込んであり、スタッフ一人一人が無理のない時間に学習できるよう、イーケアラボを活用している。	一人ひとりの尊厳を守るため、認知症を学ぶ研修を通して「入居者の様々な行動には必ず理由がある」と職員会議や面談で話し合っています。親しいがゆえ、利用者に向けて発している言葉や態度で、誇りや気持ちを傷つけないかを意識して支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	主権・主体はご入居者様であり、スタッフはあくまでも支援を行わせて頂いているという自覚を促し、何か行動を起こす際にはご入居者様のご了承を頂いてから実施する事としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	それまでの生活を大切にし、お一人お一人のペースを尊重して支援を行うようにしている。また、ご家族様からも聞き取りを行い、自身で伝えられない方に対しても留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的な訪問理美容を軸に、ご本人様のご希望に沿ったケアを実施している。化粧や髪染めなどにも対応し、いつまでも自身に誇りが持てるよう支援を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食レクなどを通じ、『楽しい』と思える食生活を心掛けている。 食事の支度や片づけなどは、可能な方には職員と共に行い、立位が取れない方にも座って出来るお手伝い等をお願いしている。	料理の好きな入居者は、おやつの盛り付けをしています。誕生日には、アルコールを楽しむ人もいます。料理の得意な職員による、鉄板焼きのメニューなど楽しく食事出来るよう工夫しています。夏には、菜園で育てたスイカや野菜などを楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量や食事量などはタブレットで共有しており、必要事項を申し送りながら、食事の組み立てを行っている。また、好みに応じて柔軟に対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	月に2回と緊急時の歯科往診を可能とし、歯科医師の指導を受けながら口腔ケアを行っている。また、嚥下の状態確認は専門医を呼ぶことも可能で、誤嚥性肺炎等に気を付けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	なるべくトイレでの排泄を目指し、立位が不安定な方などはスタッフ二人でトイレ介助を行っている。排泄状況はボードで一目で解るよう、チェックを行い、失敗前におトイレに誘導するよう心がけている。	自尊心に配慮して、人前でトイレと言葉に出さず「こちらに来ていただけますか」と声掛けして誘導しています。終わると「有難うございます」と伝えます。失敗した時は、利用者の恥ずかしさや不快感を軽減するような言葉かけをしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便状況もボードで確認を行いながら、医師や看護師の助言を得ている。自然な排便を促すため、牛乳の提供や、軽い運動等も支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴拒否が見られた場合は、時間に捕らわれずに対応を行うようにしている。また、入浴剤の使用、季節のゆず湯、菖蒲湯など、入浴を楽しんで頂けるよう支援を行っている。	入浴は週2回午前中に入っています。入浴拒否の時は時間をずらしたり、言葉かけや職員を変えたり、工夫して試みています。湯は毎回入れ替えて、清潔に配慮しています。車いすの入居者は、安全を考え2人介助で行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	身体状況やご本人様のご希望に沿い、適宜休息できるように支援を行っている。また、夜間帯の睡眠時間とのバランスを考えながら、休息時間を設定し、適宜お声をかけさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の処方時には調剤薬局の薬剤師が付き添い、説明を受けている。また、ご本人様の状況が変わった時等も医師や薬剤師にすぐに相談できる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	新聞畳みや雑巾作り、洗濯物畳み等、その方が得意とするお手伝いをお願いすると共に、感謝の気持ちを伝え、役割を持って生活をしている、必要とされていると感じて頂けるよう支援を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	長時間の外出は感染症防止の観点でご遠慮頂いているが、近所への散歩や庭の菜園の手伝い等、なるべく外の風を感じ、気分転換を図って頂けるように留意している。	コロナ禍により遠出は出来ませんが、戸外に出て季節の風を感じながら気分転換をしています。施設周りのウッドデッキを歩いたり、コンビニエンスストアにおやつを買いに行くなど個別に出かけています。車いすの入居者にも気分転換してもらえるように、ホーム菜園の皆で育てた野菜や花を見に行くなどの声かけをしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご入居の際にお金を持ちたいと希望される方に対しては、ご家族様に確認の上、可能としている。ただし、施設で買い物を行う際には立替金にて支払いを行うシステムの為、実際にお金を必要とする場面はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設の電話の使用を可能としている。また、携帯電話の持ち込みも可能としており、必要に応じて充電の支援や確認を行いながら、外部との繋がりを大切にしている。また、お手紙に関してもご希望があれば作成のお手伝いを行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やフロアなどには季節の草花を飾り、季節感の演出に努めている。また、庭のミニ菜園でも季節の花を育て、お客様と一緒に摘み取る楽しさを提供している。音や光、色、広さ等はお一人お一人で感じ方が違うが、席の移動やカーテンなどで出来る限り快適に過ごして頂けるように配慮している。	菜園から摘み取ってきた植物をテーブルに置くなど工夫しています。ペットボトルのふたを利用し、スキューバダイビングが趣味の入居者と共同で作成した「ウミガメ」や「春の富士」「秋の風景」の作品を壁に飾っています。鏡を見ると不安になる人に配慮して、トイレの鏡は暖簾でカバーしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	その日、その時のご様子で、適宜席を移動したり、一人で過ごせる環境作りに留意している。また、スタッフも必要に応じて介入しながら、楽しくお客様同士が過ごせるよう配慮を行っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様の使い慣れた物などの持ち込みを推奨しており、お仏壇の設置も可能としている（火気は厳禁）。お写真を飾ったり、テレビの設置も可能となっているが、なるべく居室に引きこもらない様、お声をかけさせて頂いている。	馴染みのものを持ち込み、その人らしく暮らせるようにしています。家族の遺影を飾ったり、毎日娘さんと携帯電話で話をするのを楽しみにしている人もいます。居室で趣味の刺し子や手紙を書くなど一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレ、フロアには手すりが設置されており、安全に配慮しながら自由に移動できる環境となっている。トイレに関しても3か所設置しており、一目でトイレと解るイラストで表示してある。		

事業所名	ツクイ横浜大久保グループホーム
ユニット名	2階 ひだまりフロア

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念浸透の為に、毎朝の唱和を行っている。 また、理念に沿った尊厳の重視、チームワークの重要性を話し合い、実践に結びつける努力を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在感染症の防止の観点で、中々交流が持てないが、散歩の際には積極的に声をかけ、関係を繋いでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在感染症の防止の観点で、施設内への立ち入りを制限しており行う事は難しいが、地域の駆け込み寺的な存在を目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在感染症の防止の観点で、ここ2年は書面開催としているが、2か月に1度は書面開催の内容を送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の議事録は必ず手渡しで区役所の担当職員に渡し、積極的に話しかけ、存在をアピールし続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2か月に1度、委員会を開催し、各フロアの現状について、問題点や改善点を話し合っている。 また、年に2回の研修も開催し、資質向上に努めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	2か月に1度、委員会を開催し、各フロアの現状について、問題点や改善点を話し合っている。 また、年に2回の研修も開催し、資質向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を開催し、理解に努めている。 現在後見人制度を利用しているお客様がいらっしゃる為、より深く理解する事が必要であり、今後も研修等で学ぶ機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関してはご本人様、ご家族様のご事情を尊重し、フロアの現状と鑑みて説明を誠実に行っている。改定の際にも対称表にて丁寧に説明を行い、合意と同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談室に意見箱を設置し、意見の徴取を行っている。また、運営推進会議開催の前にも、ご意見等を頂くよう、働きかけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別の面談、更新時面談、夜勤者面談等で、意見を聴き、一緒に考えるよう働きかけを行っている。 また、必要であれば、本人の了解のもと、フロア会議等で議題として取り上げている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアデザインや、目標設定、評価シートなどを用いて、個々の希望達成や、研修の機会を設けている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の研修の他に、資格取得の補助やイーケアラボの活用等、幅広く職員育成に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	感染症防止の観点から外部者の立ち入りを制限している。 ただ、感染状況に応じては自由にネットワークの構築を図る事が出来る。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントを丁寧に実施し、ご本人が安心して暮らせるように、不安、困り事への対応をケアプランに援助内容も組み入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談時に、家族からの聞き取りを行い、家族の希望もケアプランに組み入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを丁寧に実施し、ご本人がどのような支援を求めているかを聞き取りし、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者には、生活リハビリを始め、出来ることは一緒にしながら、暮らしを楽しんでいただき、誰かの役に立ちたいという思いが叶うよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要時は家族に連絡し、様子報告し、協力して頂いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会の少ない家族には、電話連絡し、本人と直接話して頂く等、工夫し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食席の配置を考慮し、孤立せず、関わりあり、楽しく過ごせるよう配慮している。トラブルになりそうな時は、スタッフが介入し、関係が崩れないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転居された方や、ご逝去されたご家族様に対しても、何かあればいつでもご連絡を頂くよう、お伝えしている。ご退去後数年経ってもご家族様が不要な古布や新聞紙を差し入れて下さることもある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に様子観察するとともに、家族からの聞き取り等から、希望する暮らしに近づけるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族からの聞き取りをベースに把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	スタッフ間で情報を共有し、出来ることを見出すよう努めている。また、一人ひとりの生活ペースに合わせて過ごせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	フロアカンファレンスで毎月話し合い、課題の抽出、対応について検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	連絡ノートを活用し、情報共有し、ケアプランの見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族とは密に連絡をとり、さまざまなサービスが取り入れられるよう、努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍で地域との連携は困難ではあるが、地域の小学校の運動会への参加、お祭り巡行等、実施していた。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の選定はご家族様やご本人様の意向が優先され、かかりつけ医を持たない方に対しては日頃の様子観察や特変時の対応として、施設に出入りしているかかりつけ医を紹介している。（みらい在宅、みずほクリニック等複数あり。他を探す事も行ってい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週金曜日に訪問看護師が全ご入居者様の健康観察を行っている。また、緊急時の電話相談や訪問も24時間体制で行っている。訪問看護師が必要と判断した場合には往診医に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を交え、状態の把握や早期退院に向けた話し合いを病院関係者を行うようにしている。また、退院後の生活についても入院中に医師、看護師と話し合いを行い、ご家族様のご希望も取り入れた上で安心して迎えられる環境作りを構築している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期であると医師が判断した場合は、施設にご家族を呼び、意思を交えた丁寧な説明と同意を頂いている。また、居室担当者を中心にご家族様のご希望を基に安心できる環境を提供できるよう留意している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な研修の場や、緊急時のマニュアルの整備を行っており、特変時にも慌てず対応できるよう訓練を行っている。また、管理者、計画作成担当者は24時間の電話連絡を可能とし、不測の事態に備えている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業継続計画を策定し、各フロアに整備している。また、緊急時の避難先や連絡先等は各フロア事務所に掲示し、必要時にすぐに確認できる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その方の性格や生き方を最大限に尊重し、丁寧な支援を心掛けている。 また、接遇に関しては年間研修計画に盛り込んであり、スタッフ一人一人が無理のない時間に学習できるよう、イーケアラボを活用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の自己決定を促すような声かけや傾聴に勤めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の生活ペースに合わせ、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	こだわりのある入居者にも対応している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の下ごしらえや、簡単なおやつ作り等をしていただいている。片付けは率先して手伝ってくださる入居者と一緒に談笑しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ケアプランに具体的に必要な食事形態や形式を記載し、無理なく必要な食事量、水分量が摂取出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔内の状態、本人の能力を把握し、毎食後、状態に合わせた口腔ケアを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時排泄誘導、介助を含め、様子観察から、遅滞なく声掛け、排泄誘導に勤め、排泄の失敗の軽減を図っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	往診医、訪問看護師と連携し、予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日、時間帯はおおよそ決めているが、本人の希望に合わせ、ゆっくり入浴が楽しめるよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	おおよその就寝時間を把握し、臥床対応している。日中も休息が必要と思われる入居者には、声掛けし対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の処方時には調剤薬局の薬剤師が付き添い、説明を受けている。また、ご本人様の状況が変わった時等も医師や薬剤師にすぐに相談できる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者の嗜好、趣味、能力に合わせ、手芸、パズル、体操、談話等で気分転換し、楽しみ多く過ごして頂けるよう努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	長時間の外出は感染症防止の観点でご遠慮頂いているが、近所への散歩や庭の菜園の手伝い等、なるべく外の風を感じ、気分転換を図って頂けるように留意している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご入居の際にお金を持ちたいと希望される方に対しては、ご家族様に確認の上、可能としている。ただし、施設で買い物を行う際には立替金にて支払いを行うシステムの為、実際にお金を必要とする場面はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設の電話の使用を可能としている。また、携帯電話の持ち込みも可能としており、必要に応じて充電の支援や確認を行いながら、外部との繋がりを大切にしている。また、お手紙に関してもご希望があれば作成のお手伝いを行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間の清潔保持に勤めるとともに、季節が感じられるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにはソファを設置し、一人で過ごしていただいたり、気の合う方と食席を離れて談話していただいたりしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレドアにはそれとわかるような表示をし、自立で排泄できる方が迷わないよう工夫している。日々、出来ること、わかることが見いだせるよう、声掛け、傾聴している。		

2022年度

事業所名 ツクイ横浜大久保グループホーム  
 作成日： 2023年 2月 23日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	コロナ渦において、書面開催が続いており、議事録の記載が多く、長い文章が目立っている。読む側は、読みにくいのではないか。	伝えたいことを項目ごとに短く纏め、ご家族様や地域の方が読みやすく、施設の状況が判りやすい議事録を心掛ける。	事故報告書の文章が長く、読みにくい為、要点を纏めて記載する。研修や委員会の様子を箇条書きで見やすく纏める。	3ヶ月
2	2	コロナ渦において、運営推進会議の中止や催し物の中止が続き、地域との繋がりが薄れている。	コロナ渦前のように、地域の中で地域の方に愛され、必要とされる施設運営を目指して行く。地域の方が気軽に訪れる事が出来るようこちらからアプローチをしていく。	散歩や清掃を通じ、地域住民との交流の再開を試みて行く。また、感染症に留意しながら、地域の催し物への参加を心掛けて行く。	6ヶ月
3	11	直接面会の中止の為、ご家族様や知人の方のご面会が減り、双方に心理的距離を生んでしまっている。	感染症に留意しながら直接面会を再開して行く。 お墓参りや家族との食事など、外部へのお出かけの支援を行って行く。	お客様、ご家族様、スタッフのワクチン接種の確認や、感染症の状況の把握、感染症対策委員会を中心とした感染対策等、正しい知識の元10分程度の直接面会を目指して行く。	12ヶ月
4	16	災害対策としての備品の貯蓄が充分ではない。使用期限前に使いながら新しい物を購入するサイクルが成り立っていない。すぐに出せる場所に収納されていない。	どこに何がどれくらい収納されているのかが、全スタッフ把握できるように一覧を作成する。収納場所を取り出しやすく管理しやすい場所にする。	感染症対策の物品を敷地内の倉庫に移動。災害備蓄品を階段下のスペースに収納。一覧を添付し、飲水・食料品は定期的に購入し、期限前に使用できるようにする。	12ヶ月
5	10	スタッフの高齢化が目立ち、向上心に陰りが見える。次期管理者候補がおらず、10年後を見据えた施設運営が出来ていない。	施設運営を共に担える人財を育成し、向上心のあるスタッフの元、お客様の幸せとご家族様の安心を第一に考えられる施設運営を行って行く。	時期管理者候補やリーダーの発掘に向けた継続的な求人と人材育成。会議や研修への積極的な参加促し。共に学び進む気持ちで人を育てていく。	12ヶ月